

韓国は BPA に関して科学に耳を傾けている

BY STEVEN HENTGES, PH.D 2016 年 3 月 31 日 IN INDUSTRY, POLICY

先週、韓国・食品医薬品安全処(MFDS)が、査読付き科学論文誌” Environmental Research” に、[BPA のリスク評価](#)を発表した。食品医薬品安全処は、食品やその他製品の安全性を確保する事により、公衆衛生を推進する責任を負っている政府機関である。

詳細は重要だが、皆が知りたいのは最終結果であり、MFDS は以下のように結論付けている。

“ *[BPA の]食事による暴露や複合暴露による、韓国の一般住民の健康上の懸念は無いと我々は見出した。*

もしあなたがこれを読んでいるとしたら、恐らく韓国に住んでいないだろうから、なぜ気にしなければならないのか？ 韓国の食品を好きでさえないかもしれない。しかし、あなたがどこに住んでいて、どんな食べ物が好きかに関してではない。全て科学に関する事であり、関心を持つべきである。

彼らが明確な結論に到達するために、MFDS の研究者達は、BPA 暴露による潜在的リスクを評価しようと確立した科学的手順に従った。大まかに見ると、この手順は韓国住民の BPA 暴露の測定及び暴露レベルと健康影響に基づく指標値との比較からなっている。

暴露測定には、1 か月から 60 歳以上までの年齢範囲の 2,044 名の参加者のデータを含む最近の MFDS の研究を利用した。この研究から得られたデータを用いて 3 つの独立した方法で BPA 暴露を推定した。

全体的な安全性の結論を出すために、BPA に関する広範な動物実験データから研究者達が求めた耐容一日摂取量(TDI)と推定暴露値を比較した。研究者達が言及している通り、「BPA 暴露を保守的に見積もっても、推定暴露量は TDI の 2% 以下であった。」
わかりやすく言えば、

“ *韓国の一般住民の健康上の懸念は無い。*

我々韓国人以外にとって重要な事は、MFDS の研究者が北米や欧州の BPA 暴露データと韓国のデータを比較している事である。BPA 暴露は各地域で似通っているので、MFDS の安全性に関する結論を外挿し、世界の他地域での BPA 暴露についても同様に健康への懸念は無いとさらに進んだ結論を下す事が出来るだろう。

いや、外挿を行う必要はない。世界中の政府機関、とりわけ欧州食品安全機関(EFSA)や米国食品医薬品局(FDA)がそれぞれ独自の評価を行い、独立に同様な結論に達している。分かりやすく代表的な例として、FDA は独自の評価に基づき、「[BPA は安全ですか?](#)」と言う問いに対し、明白に一言「Yes.」と答えている。